

(様式例)

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校

学校番号 119

自己評価

| | |
|--------------------|--|
| 学校教育目標 | 「ひとりだちのできる子」の育成（自立と社会参加の力を育てる） （思いを伝える 自分も仲間も大切にする なりたい自分を目指す） ・生活自立（基本的な生活習慣の確立・基礎体力の向上・基礎学力の定着） ・社会自立（情緒のコントロール・コミュニケーションスキルの獲得・規範意識や危険回避能力の育成） ・職業自立（自己理解と行動の調整・働くことの意義や役割の理解・職業に対する理解や実的な知識・技能・態度の習得） |
| 評価する領域・分野 | 「地域との連携」 |
| 現状及びアンケートの結果分析等 | 地域の団体や個人の方と直接児童生徒が関わる取組を行った。小中学部の居住地校との交流では、当校で交流活動を行う新しい取組も行うことができた。また、行事に多くの高校生がボランティアに応募し、児童生徒を知ってもらう機会となった。地域の催し物の紹介も行ったが、「ややあてはまらない」「わからない」との回答が多かった。児生徒徒が直接地域とつながるための取組についての検討が必要である。 |
| 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ・地域の方が、児童生徒の姿を知ったり一緒に活動したりする機会を設ける ・地域施設の利用や人々との関わり ・居住地校交流を通して、地域の児童生徒の周知を図る ・地域の催し物を家庭へ周知 |
| 重点目標を達成するための校内組織体制 | ・地域の方の来校、参観：教務部、進路支援部、小・中・高各部 ・児童生徒の活動に地域の方の参加を図る：渉外部 ・校外学習等で、地域資源を利用する：小・中・高各部 ・地域催し物への参加：学習支援部、進路支援部、管理職、小・中・高各部 ・居住地校交流の推進、工夫：小、中学部 ・地域の催し物や施設の情報を家庭へ発信：管理職、小、中、高各部 |
| 目標の達成に必要な具体的取組 | ・主任児童委員や児童館職員の授業参観 ・外部に向けた、高等部作業製品の販売会の実施 ・児童生徒の活動に対するボランティアの募集 ・校外活動での休憩やトイレ借用への協力依頼、お礼状の送付 ・地域の文化祭に作品展示や作業製品の販売で参加 ・居住地校交流で、打ち合わせの充実や活動内容の工夫を図る。 ・学校連絡アプリを使用して、地域の催し物を各家庭へ紹介 ・地域の施設を使用した様子を、ホームページや通信で家庭に伝える。 |
| 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | ・学校評価アンケートの回答結果 ・参観での意見や感想 ・懇談時の保護者からの意見 |
| 取組状況・実践内容等 | ・主任児童委員の見学では、改めて各地域の児童生徒が通学していることを実感され、児童館職員の見学時には、質疑応答で児童生徒への支援方法が共有でき、地域の受け入れ態勢につながった。 ・作業製品の販売会では、多くの来場者があり、販売活動を通して実際に生徒との関わりをもつ機会となった。 ・児童生徒の活動に、30名の高校生ボランティアの参加があった。感想には、「言葉だけではなく会話を知ることができた」「また参加したい」「特 |

| | |
|---|--|
| | <p>別支援学校の教員になりたい」等の感想を聞くことができ、児童生徒への理解を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の新しい施設を校外学習で使用した際には、家庭での利用を促進するため、実際に使用した様子を連絡帳や通信等を通して保護者にも伝えた。 ・居住地校交流では、初めて相手校が当校に来て、当校の学習活動を体験するという内容を行うことができ、理解を深めることができた。 ・地域の文化祭で作品展示や作業製品の販売、文化音楽部の発表を行い、地域の人々に改めて当校の児童生徒の存在を周知する機会となった。 ・学校に届く地域の催し物の案内について、学校連絡アプリを使用してその都度保護者に知らせた。 |
| 評価の視点 | 評価 |
| ① 地域の方が児童生徒の事を知ったり関わったりする機会を設けることができたか。 | A (B) C D |
| ② 児童生徒が地域に出かけ、地域の人々と関わりをもつような活動を設定することができたか。 | A (B) C D |
| ③ 居住地校交流での理解啓発や活動内容の工夫は十分だったか。 | A (B) C D |
| ④ 保護者や児童生徒が、地域とつながることができるよう働きかけることができたか。 | A (B) C D |
| A 十分達成した、B おおむね達成した、C やや不十分、D 不十分 | |
| 成果・課題 | 総合評価 |
| <p>地域の方の学校見学を通して、改めて地域の児童生徒が当校に通ってきているという認識をもっていただき、地域の受入体制の改善につながった。</p> <p>ボランティアの募集には多くの高校生が参加し、直接児童生徒と関わることを通して、当校に通う児童生徒への理解を深めることができた。</p> <p>交流では、当校への来校や学習活動の体験をするという工夫をし、新しい交流の形を作ることができた。</p> <p>学校からの働きかけを受けて、催し物に参加したり、事業所の見学を行ったりして家庭があった。さらに、働きかけをしていきたい。</p> <p>校外学習で地域へ出かけ施設の利用は行ったが、地域の人と直接関わりをもち、つながるような活動の充実が図れると良い。</p> | A (B) C D |
| 来年度に向けての改善方策案 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、児童生徒が社会に出て活動できる力をつける教育や保護者への情報発信を続けていく。 ・高等部作業製品を通して地域の方とつながるために、実際に使用していただき、その感想を教育活動に活かす取組を行う。 ・地域の文化祭への参加を継続していく。 ・地域資源を活用し、地域の人と関わることもできる校外学習等を工夫し、その様子を家庭に発信していく。 |

学校関係者評価 (令和 6年12月16日実施)

| |
|--|
| 意見・要望・評価等 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校で行う高等部の作業製品の販売会は、色々な人が来る機会となる。 ・地域の文化祭への参加に感謝している。出演時の参観者を多くするように工夫していきたい。 ・地域が主催する文化祭は、地域の人に知ってもらえる機会となる。続けて参加すると良い。 ・地域連携やボランティアの参加、まちづくり協議会との連携が素晴らしい。 ・地域の居場所づくりに取り組んでいる。お互いが支え支えられる存在として、生徒が地域で担う立場になることもあるのではないかな。 ・児童生徒一人一人が輝いて尊重される存在であることを伝えるためにも、活動の幅を広げてほしい。 ・学校運営協議会において、5年先、10年先の構想をもとに、学校と連携していきたい。 |

